

◇保育科第一部 主要科目の特長

| 科目 | 特長 |
|-------------------|--|
| 保育原理A | 今の社会に必要とされる保育について、システムや法令、歴史の変遷や現代的ニーズ等を中心として真摯に考えながら、何が子どもにとっての最善の利益なのかを、社会変化やそれに伴う保育の課題を軸に考察を深めていく。学生諸君の幼い日の経験が考える原点とも言えます。その中の何が現在の自分に影響しているのか、学びながら解き明かしていきましょう。 |
| 保育課程総論 | 教育・保育課程の意義を十分に理解し、理論と実践をつなぐことが出来るように、基礎的な知識を習得します。実際の保育を視聴覚機器を通して視聴し、保育に対する基本を理解した上で、子どもの主体性を尊重する指導計画の作成について理解することを目的とする。さらに、保育を巡る今日的課題を新聞やニュースなどから察知し、子どもや保育に関する様々な専門的知識を習得し保育の実践力を養う。 |
| 保育の心理学 I | 保育を行う上では子どもの発達を理解することが不可欠である。保育の心理学 I では、人間の生涯にわたる発達過程の理解を目標とし、誕生から死に至るまでの人間発達の流れを複数の発達段階に区分し、それぞれの段階における発達の特徴を解説する。また、発達のつまずきについて理解することも目標とする。 |
| 音楽教育A | 保育現場で音楽活動を行うにあたっては、まず、楽譜に書かれている内容が理解できることが必須です。本授業では音楽の基礎である音楽理論を学びます。 |
| 造形A 担当者名:岩見 健二 | 子どもが絵を描きものを創るという行為は、とりもなおさず[心]を造形することであり、成長過程の中で重要な位置を占めている。子どもの[心]を的確に受け止め、生き生きと創作活動に打ち込めるようにするには、まず保育者自身が豊かな感性を持たなければならない。その為にも保育者が創作体験を持っていることが大切な要素になる。楽しく創作体験を重ねることで、材料経験を豊富にし、感覚を磨いてほしい。 |

◇保育科第一部 主要科目の特長

| 科目 | 特長 |
|-------------------|--|
| 造形A 担当者名:柳楽 節子 | <p>子どもの成長において造形遊びは重要な役割を担っているといえます。子どもの創造力は遊びを通して育まれます。造形遊びの楽しさを子ども達に伝えるには、保育者自身が造形の楽しさを知っていなければなりません。この演習では造形の基礎となる描写力、色彩の知識、画面構成力を養うためにさまざまな課題を準備し、受講生が作品制作を楽しみながら、自身の得意な領域を発見できることをめざします。</p> |
| 幼児体育A | <p>演習科目である為、理論と実践を交えながら進める。子どもの理解を深める意味で附属幼稚園の子どもを観察をしたり子ども達と接する機会を持つ。この授業を通して得た知識を、Ⅱ期開講の幼児体育Bに有効に活用されることを期待する。</p> |
| 社会福祉 | <p>社会福祉とは、広く人びとの幸せな社会生活を支援する考え方や具体的な方法、およびそれらを実現するさまざまな施策の総称である。本科目では、社会福祉の歴史や理念、法制度を学ぶことにより、社会福祉の実現にむけた担い手としての理解を深めることを目的とする。また、実践で求められる諸領域(児童福祉・障害者福祉・高齢者福祉など)の基礎的知識など、保育士に必要な力を養うことを目指す。</p> |
| 教育原理 | <p>現代社会が急速に変化するなかでどのような教育が求められるのか、或いは、人間社会において不変的で本質的な教育課題はあるのか、あるとするならそれはどのようなものであるのか、このような事柄を念頭に置いて、教育にかかわる諸問題を多様な側面から考察する。特に、人間の成長や発達にとって必要で不可欠な「教育」の機能や役割、意義について、教育の社会的、歴史的、人間学的観点から理解できるようにしたい。</p> |
| 教師・保育者論 | <p>学生がめざす保育者像を明確にし、その実現に必要な学習過程を計画する。また、保育に関する知識を深め、1年生から積み重ねてきた理論や実習からの学びを通して、保育者としての資質の向上を図る。さらに、学生の人生経験を振り返らせ、その結果を今後の進路選択に活用し、自らの望ましい保育者像を構想する。</p> |